

当社は
**愛知県三河地方を
中心**に、地域に密着した
スーパーマーケット
チェーンを展開して
おります。

DOMY REPORT

第77期

平成29年6月1日 ▶ 平成30年5月31日





代表取締役社長

梶川 勇次

企業風土を改革して、 信頼回復・再発防止に努めます。

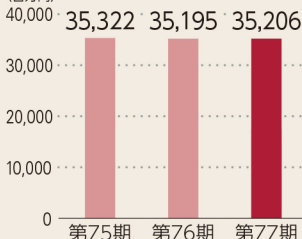
株主の皆様、関係者の皆様、このたびは当社株式の上場廃止で、多大なるご迷惑、ご心配をおかけいたしましたことを、まずは心より深くお詫び申し上げます。また、その渦中にいただいた励ましのお言葉やご支援は有難く心に沁み、大きな力となりました。ここに感謝申し上げます。

当社グループは、地元の皆様に安全安心な食品をお届けできるように努めてまいりましたが、不適切な会計処理が行われていたことが第三者委員会の調査の結果、判明いたしました。

連結決算ハイライト

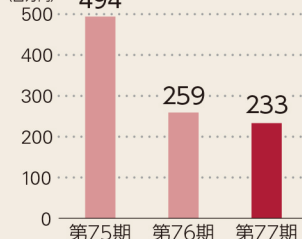
営業収益

(百万円)



営業利益

(百万円)



※第75期～第76期における数値は、過年度決算訂正を反映した数値であります。

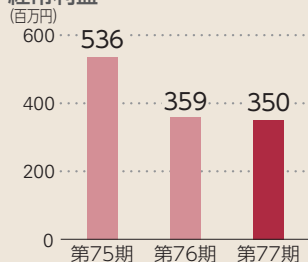
私は社長として、これを防止すべき立場にありながら、管理不足で見過ごしたことを重く受け止めております。第三者委員会の指摘および提言を踏まえて、社内で再発防止策を検討し、取締役会で決議しましたので、その内容の遵守を徹底していく所存です。

社長3年目の私は、今年50歳になります。企業のトップとしてはまだまだ未熟ですが、従業員たちと年齢が近いことをメリットと捉え、「社長に意見が言いやすい」という社内の雰囲気を作り出していけたらと思っております。また、その風通しの良さが、今回のような不適切な会計処理などの再発防止に繋がると確信しております。

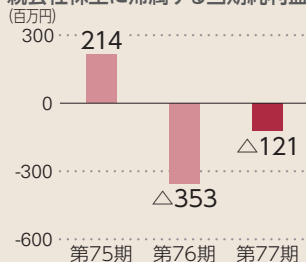
さて、当期の業績につきましては、連結決算では営業収益は352億6百万円(前年同期比0.0%増)、営業利益は2億33百万円(前年同期比10.0%減)、経常利益は3億50百万円(前年同期比2.3%減)、親会社株主に帰属する当期純損失は1億21百万円(前年同期は純損失3億53百万円)となりました。

今回の件を機に、今後当社の企業風土を大きく改革し、地域密着のスーパーマーケットとしての期待に応え、株主の皆様のご信頼回復に努めてまいります。引き続き、ご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



Q1

企業風土はどのように改革されますか？

当社は創業105年目を迎え、先代の「地域密着型食品スーパー」という基本方針を創業者一族で守り続けてまいりました。その結束と継承で、愛知県下に37店舗を出店するまでに拡大しましたが、一方では、いつしか「経営トップに異を唱えにくい企業風土」になっていたのは否めません。そこで、主に経営陣の人事を刷新し、大幅な組織改革を行いました。

まず、人事では親族中心の経営体制を改め、「経営陣と従業員が自由に意見交換できる企業風土」を目指します。さらに、外部の意見を取り入れるため、社外取締役を増員しました。とくに、当社がお客様も従業員も女性がメインである食品小売業である特色を考慮し、女性目線の発想をより一層取り入れられるように、女性の社外取締役を迎えました。

組織改革では、これまで営業本部の下にあった管理部門を独立させ、新たに「管理本部」を設置いたしました。これにより、営業部門と管理部門が対等に協力しながらも牽制できる関係になり、お互いにチェックしながら情報を共有できるようになりました。人事異動についても、事業部間の垣根を越えた人事異動も積極的に行い、各自の能力を適材適所で発揮できる組織にしていきたいと考えております。

また、重要事項の決定については、これまではトップダウンで「決断が早い」というメリットもありましたが、今後は営業部門と管理部門による「経営会議」を設けて、「取締役会」の前に「経営会議」で決議する合議制を採用してまいります。

Q2

再発防止のための コンプライアンス強化策は？

このたびの不適切な会計処理とは、店舗に係る固定資産の減損処理方法に関し、仕入先からのリベート・協賛金の会計処理についての不適切な傾斜配賦でした。この件につきましては、既に、リベート処理に関する、社内規定の制定と適切な運用を行うとともに、店舗間の商品振替、加工センターから各店舗への出荷等についても社内ルールの制定と適切な運用を現在行っております。

お恥ずかしいことですが、不適切な会計処理による弊害やリスクに対する知識が不足していたのも事実です。全従業員に対して、「ルールを守る」「不正を見逃さない」というコンプライアンス意識を徹底させることが大切だと感じております。これまでも「リスク・コンプライアンス委員会」を月一回開催していたのですが、現在は、私自らが委員長となり、リスクコンプライアンスの徹底を図っております。

さらに、コンプライアンスの問題を専門的に扱う部署として、新たに「コンプライアンス推進室」を設置しました。「リスク・コンプライアンス委員会」で認識した問題の対策は、ここで具現化してまいります。

Q3

今期のトピックスと
期待できる事業展開は？

昨年6月1日に「ドミー安城アンフォーレ店」を出店いたしました。ここは、安城市の中心市街地拠点施設である図書情報館やホールに併設しており、今後、駅前の区画整理や開発が予定されているので、さらなる発展を見込んでおります。

昨年10月5日にオープンした「ドミー瀬戸菱野店」は、三河以外の地域への久しぶりの出店でした。尾張東部への出店は東郷店に次ぐ2店舗目で、ドミナントエリアの拡大につながり、愛知県下で37店舗目の出店となりました。

昨年4月に岡崎市内のショッピングセンター「レスパ若松」内に新設した「ドミーデリカ惣菜センター」も順調に稼働しています。生産の集中化・効率化によって、人手不足を補い、順調に拡大しています。作業効率だけでなく、衛生管理面でも厳重徹底が実現できています。小さい店舗で作れなかった惣菜も、センターから配送することで供給可能になりました。増設スペースも確保しており、製造する品目を吟味して拡大していく予定です。

ドラッグストア、コンビニエンスストア、ディスカウントショップやネット販売との競合は依然厳しい状況にあります。そのなかでも当社の強みとして、売り場での「食の提案」があります。季節を感じさせる「夏野菜フェア」「きのこフェア」などの企画、野菜売り場にドレッシングを置くなどの「食のクロスマーチャンダイズ」。売り場のテリトリーにこだわらず、お客様の立場に立って、食の楽しさを感じていただけるような売り場づくりを目指しています。

グループ会社の岡崎商業開発は、コンビニエンスストア、喫茶店、スポーツクラブなど新たなテナントを入れて成功しており、今後のテナント収益が期待できます。

Q4

最後に株主の皆様 メッセージをお願いします。

このたび、コンプライアンスの面で当社の問題点を自覚することになりましたが、「現場力」や「おもてなしの心」は、変わらず当社の強みだと思っております。地域密着の食品スーパーとして、三河地方の食文化に寄り添った品揃え、`地産地消、への取り組みは変わりませんし、現場においては、地域のお客様のために食の提案をしていくという役割を今まで以上に果たしてまいります。

その上で、関係者の皆様方の信頼を取り戻すべく、会社の健全化を図っていきたいと考えております。経営者の利己的判断がないように権力を分散化して、重要事項の決定は合議制にし、各店舗の店長、地区長から意見を吸い上げ、現場の声が反映される体制にいたします。

経営者にはいろいろなタイプがありますが、自分の持ち味を生かして、若い従業員も意見を言いやすい存在になろうとあらためて意を決する所存です。謙虚に意見を聞き、良い提案は取り入れ、改革を恐れず、進化し続ける会社でありたいと思っております。

今後、全力で社内体制の再構築、および信頼回復に努めてまいりますので、変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

TOPICS

新 店 舗 情 報

ドミー安城アンフォーレ店 (愛知県安城市)

平成29年6月1日オープン

安城市の中心市街地拠点施設(図書情報館・ホール・公園・イベント広場)に併設した商業施設へ出店しました。この施設の愛称「アンフォーレ」が「安城の森」を意味することから、店内の装飾には緑色(グリーン)を多く採用しました。

安城市への出店は3店舗目となりますが、既存店舗の新安城店と安城横山店との相乗効果により、安城エリアでの一層のドミナント化を推進しました。



[社会貢献活動]

COMMUNITY CONTRIBUTION ACTIVITIES

工場見学



ジュニア野球教室



ドミー瀬戸菱野店 (愛知県瀬戸市)

平成29年10月5日オープン

瀬戸菱野店はスギ薬局、セリア、家具のスーパーバリューなどとともに15店舗のテナントが入居する瀬戸菱野ショッピングセンターとして開店しました。

周辺の商圈人口は多く、三河からのアクセスも良く、居抜物件のため出店コストも抑えることができました。三河地方を中心に开店してきましたが、尾張東部への出店は東郷店に次ぐ2店舗目となり、ドミナントエリアの拡大につながりました。



地域とのより密接な交流を推進するため、「工場見学」「ジュニア野球教室」「農業体験学習」「料理教室」など地域社会に貢献する企業を目指し、様々な取り組みを行っております。

農業体験学習



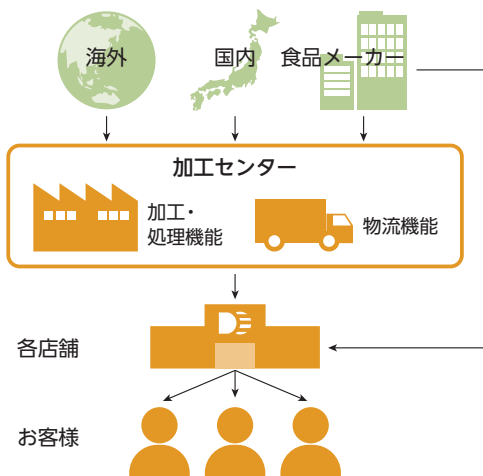
料理教室



店舗展開

■ ドミナントエリア戦略

現在、ドミーは愛知県下に37店舗を出店しています。出店戦略の基本は、その地域で顧客シェアを拡大していくドミナントエリアの形成にあります。岡崎市にある岡崎食品加工センターから配送トラックで1時間圏内の地域で、人口2万5千～3万人の商圈に毎年1～2店舗の割合で出店していく方針です。ドミナントエリアの形成によって経営効率を高める一方、コスト削減の成果を商品価格に還元することが可能となり、お客様により一層ご満足していただくことを目指しています。



ドミーデリカ惣菜センター

平成29年4月に岡崎市内のショッピングセンター「レスパ若松」内に新設しました。店舗の人手不足に対応すると共に、安全安心な自社製造の惣菜商品をお客様にお届けできるようになりました。



店舗一覧(平成30年8月29日現在)

- 本社／岡崎食品加工センター
- 岡崎第2物流センター

- ドミーみよしセンター
- ドミーデリカ惣菜センター

〈第1地区〉

- 1 西尾シャオ店
- 2 高浜店
- 3 一色店
- 4 新川店
- 5 寺津店
- 6 吉良店
- 7 鶴城店
- 8 大浜店
- 9 丁田店

〈第2地区〉

- 10 東浦店
- 11 豊田山之手店
- 12 新安城店
- 13 若林店
- 14 安城横山店
- 15 知立店
- 16 大府店
- 17 東郷店
- 18 毘森公園店
- 19 安城アンフォーレ店
- 20 瀬戸菱野店

〈第3地区〉

- 21 百々店
- 22 稲熊店
- 23 幸田店
- 24 若松店
- 25 大樹寺店
- 26 美合店
- 27 岡崎駅東店
- 28 竜美丘店
- 29 福岡店
- 30 岩津店

〈第4地区〉

- 31 三谷店
- 32 飯村店
- 33 渡津店
- 34 神野店
- 35 小坂井店
- 36 つつじが丘店
- 37 蔵子店



ドミーみよしセンター



岡崎第2物流センター



本社／岡崎食品加工センター



連結財務諸表

■ 連結貸借対照表 (単位:百万円)

科 目	第77期(当期) 平成30年5月31日現在	第76期(前期) 平成29年5月31日現在
資産の部		
流動資産	5,500	4,183
固定資産	13,615	13,978
有形固定資産	8,073	8,437
無形固定資産	744	734
投資その他の資産	4,797	4,806
繰延資産	5	8
資産合計	19,122	18,170
負債の部		
流動負債	10,992	9,874
固定負債	6,584	6,540
負債合計	17,577	16,415
純資産の部		
株主資本	1,485	1,676
資本金	841	841
資本剰余金	790	790
利益剰余金	△ 24	164
自己株式	△ 122	△ 120
その他の包括利益累計額	59	78
純資産合計	1,545	1,755
負債及び純資産合計	19,122	18,170

(注)金額につきましては、記載単位未満を切り捨てております。

※第76期(前期)における数値は、過年度決算訂正を反映した数値であります。

■ 連結損益計算書 (単位:百万円)

科 目	第77期(当期) 平成29年 6 月 1 日から 平成30年 5 月31日まで	第76期(前期) 平成28年 6 月 1 日から 平成29年 5 月31日まで
売上高	33,656	33,638
売上原価	24,468	24,690
売上総利益	9,188	8,947
営業収入	1,549	1,557
営業総利益	10,738	10,505
販売費及び一般管理費	10,504	10,245
営業利益	233	259
営業外収益	187	179
営業外費用	70	80
経常利益	350	359
特別利益	71	—
特別損失	578	843
税金等調整前当期純損失	156	484
法人税、住民税及び事業税	37	103
法人税等調整額	△ 72	△ 234
当期純損失	121	353
親会社株主に帰属する当期純損失	121	353

(注)金額につきましては、記載単位未満を切り捨てております。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

科 目	第77期(当期) 平成29年 6 月 1 日から 平成30年 5 月31日まで	第76期(前期) 平成28年 6 月 1 日から 平成29年 5 月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	613	945
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 363	△ 724
財務活動によるキャッシュ・フロー	991	△ 286
現金及び現金同等物の増減額	1,240	△ 64
現金及び現金同等物の期首残高	1,395	1,460
現金及び現金同等物の期末残高	2,636	1,395

(注)金額につきましては、記載単位未満を切り捨てております。

会社概要

■ 会社概要 (平成30年5月31日現在)

商 号	株式会社 ドミー DOMY CO.,LTD.
本店所在地	〒444-0007 愛知県岡崎市太平町字八ツ幡1番地1 ☎(0564)25-1121
設 立	昭和16年6月2日
事 業 内 容	食品、日用雑貨及び衣料品の販売を主要業務とし、あわせて不動産の賃貸業を営む総合小売業のチェーンストア
資 本 金	841,545,170円
従 業 員 数	1,536名(連結) ※パートタイマーを含む
店 舗 数	37店舗

■ 役員一覧 (平成30年8月29日現在)

代表取締役社長 (営業本部長)	梶川 勇次		
取 締 役 (管理本部長兼 総務部長)	杉浦 直也	取 締 役 (営業本部 副本部長兼 販売部長)	長谷 忠雄
取 締 役 (経理部長)	小田 泰也	社 外 取 締 役 (公認会計士)	野村 政弘
社 外 取 締 役 (税理士 社会保険労務士)	大山 葉子		
常 勤 監 査 役	鈴木 徹		
社 外 監 査 役 (弁護士)	山本 健司	社 外 監 査 役 (公認会計士)	鈴木 人史

株主メモ

事業年度	6月1日～翌年5月31日
期末配当金受領 株主確定日	5月31日
中間配当金受領 株主確定日	11月30日
定時株主総会	毎年8月

■ 株式の状況 (平成30年5月31日現在)

発行可能株式総数	普通株式	8,200,000株
発行済株式の総数	普通株式	2,754,849株
株主数		982名
単元株式数		100株*

※当社は平成29年12月1日をもって、単元株式数を1,000株から100株に変更いたしました。

■ 大株主 (平成30年5月31日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
ドミー親和会	241	8.9
阪田和弘	134	4.9
株式会社三菱UFJ銀行	116	4.3
西尾信用金庫	116	4.3
梶川須賀子	114	4.2
ドミー親栄会	101	3.7
梶川志郎	97	3.6
株式会社名古屋銀行	94	3.5
岡崎信用金庫	78	2.8
梶川勇次	67	2.4

※持株比率は、自己株式(50,863株)を控除して計算しております。

※株式会社三菱東京UFJ銀行は、平成30年4月1日に株式会社三菱UFJ銀行に商号変更しております。

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
TEL 0120-232-711 (通話料無料)
(郵送先) 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

公告方法 電子公告(公告掲載URL <http://www.domy.co.jp/>)
※ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。

ドミーの 株主優待

株主の皆様へ
当社の商品を
お送りします!



●対象となる株主は?

毎年**11月末現在、200株以上**所有の
株主の皆様が対象です。

●どのようなものが送られてくるの?

当社の**PB商品3,000円相当の詰め合わせ**
となります。

●株主優待が届くのはいつ頃?

年1回、毎年**2月**にお送りさせていただいております。

株式会社

ドミー

〒444-0007
愛知県岡崎市大平町字八ツ幡1番地1
☎(0564) 25-1121